



日本スペイン交流400周年



概要

◆経緯

2010年9月の日本スペイン首脳会談における合意を踏まえ、慶長遣欧使節団（以下参考参照）派遣から400周年に当たる2013年から2014年にかけて、スペイン側は日本において「日本におけるスペイン年」を、日本側はスペインにおいて「日本スペイン交流400周年（スペインにおける日本年）」（以下交流年）を開催する運びとなりました。

◆目的

交流年においては、文化事業に加え、政治、経済、科学技術、観光、教育等の幅広い分野で交流事業を実施することにより、スペインにおける日本への理解促進と二国間関係の新たな展望を拓く契機とすることを目的としています。

◆主体

交流年は、官民が幅広く関与して実施するものとし、各事業の主体は政府レベルのみならず、地方公共団体、民間企業、各種団体、一般市民等各層の幅広い参加が期待されています。このため日本・スペイン両国はおのおの官民の参加する実行委員会、タスクフォースなどを設置し、交流年事業の総括、調整、認定などを行う予定です。

◆開催時期

2013年6月から2014年7月を予定しています。

参考：慶長遣欧使節団

慶長18年（1613年）、仙台藩伊達政宗（1567-1636）は大御所（前将軍）徳川家康（1542-1616）の許可を得て、支倉常長（1570-1621）を大使とする慶長遣欧使節団をスペイン及びローマに派遣し、同使節団は7年間の歳月を要し、日本人として初の太平洋横断、大西洋横断を成し遂げた。同使節団は慶長19年（1614年）にスペインに到着し、その後フェリペ3世に謁見、その目的はスペイン領メキシコとの通商関係の樹立等であったとされる。慶長遣欧使節団は、日本からスペインに対して初めて公式に派遣された使節団であり、日西関係の端緒となる重要な出来事として歴史に刻まれている。

